

若手パワーアップ塾 アンケート(第2回 天野玲子先生)

2016/11/28 開催、出席者:若手PU16名、ゼネコン有志9名、公募枠3名、その他2名、オブザーバー1名 計31名、回答数28

STEP1

[詳細を見る >](#)

第2回若手パワーアップ塾(11/28、天野玲子氏)にご参加いただきまして、ありがとうございました。若手パワーアップ小委員会では、土木学会全体の講習会の品質向上のための制度作りを考えています。つきましては、アンケートにご協力いただけますよう、お願い致します。

STEP2

[詳細を見る >](#)

1. 質問者の属性について1-1. ご所属を教えてください。

1 建設業		14
2 建設コンサルタント		3
3 JR		3
4 学校・学会		2
5 その他		6

高速道路会社関係・地方公共団体・製造業、その他民間 各1

STEP3

[詳細を見る >](#)

1.2 年齢を教えてください。

1 40-44歳		9
2 30-34歳		8
3 35-39歳		6
4 25-29歳		2
5 その他		3

45-49歳 2
55-59歳 1

STEP4

[詳細を見る >](#)

2. 若手パワーアップ塾への参加について2-1. 参加回数を教えてください。

1 2回目		16
2 はじめて		12

STEP5

[詳細を見る >](#)

2-2. 参加の動機を教えてください。（複数選択可）

1 若手パワーアップ小委員会の委員である		12
2 会社からの指示		10
3 内容に興味があった		9
4 人脈形成のため		9
5 その他		2

STEP6

[詳細を見る >](#)

2-3. 若手パワーアップ塾をどこで知りましたか。

1 若手パワーアップ小委員会		13
2 会社からの指示		10
3 その他		3
4 若手パワーアップ小委員会facebook		2
5 その他		0

STEP7

[詳細を見る >](#)

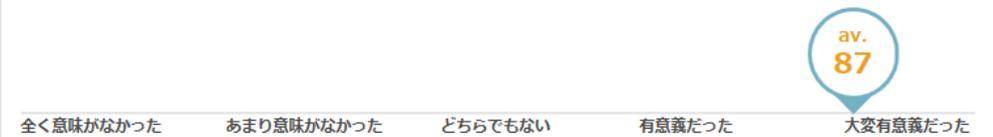
2-4. 若手パワーアップ塾に対する熱意を教えてください。



STEP8

[詳細を見る >](#)

3. 講義について3-1. 講義内容について教えてください。



STEP9

[詳細を見る >](#)

3-2. 講義で印象に残った内容を教えて下さい。（講義に出席されていない方は「欠席」とお答えください。）

STEP10

[詳細を見る >](#)

3-3. 講義についての自由意見（任意）

STEP11

[詳細を見る >](#)

4. ディスカッションについて4-1. ディスカッション量



十分すぎた

ちょうどよかった

もっと討議したかった

STEP12

[詳細を見る >](#)

4-2. 討議形式について教えて下さい。

1 グループワーク形式（今回）がよい	<div style="width: 80%;"></div>	24
2 対面形式（前回）がよい	<div style="width: 10%;"></div>	2
3 その他	<div style="width: 10%;"></div>	2

STEP13

[詳細を見る >](#)

4-3. 今回は自由討議としましたが、今回の講義に対してどのようなテーマを設定すれば議論しやすかったと思いますか。（講義に出席されていない方は「欠席」とお答えください。）

STEP14

[詳細を見る >](#)

4-4. ディスカッションに対する自由意見（任意）

STEP15

[詳細を見る >](#)

5. 懇親会5-1. 懇親会に関するご意見・ご要望（任意）

STEP16

[詳細を見る >](#)

6. その他6-1. 「若手土木技術者の視野を広げ、若手リーダーを養成する」勉強会として、勉強会全体に対する自由意見（任意）

STEP17

[詳細を見る >](#)

6-2. その他自由意見（任意）

STEP18

[詳細を見る >](#)

ご協力ありがとうございました！

講義で印象に残った内容
・現状把握、ニーズの把握、そして要求性能を満たせる技術者がベスト。・マネジメントできるのは土木屋。事実を積み上げ、現実を見せる。
組織を「つなぐ」ことの重要性を感じた
防災科学技術研究所において、天野さんが情報共有のために府省庁間連携に向け腐心されているというところが非常に印象的でした。
天野さんの人柄がよく出ていましたね。
基礎研究から実用化研究への移行、実用化へ向けた出口戦略への連携、知財化していくことが大事である。情報工学に対し、譲ることなく取り入れていかなければならない。海外事業に向け、日本システムをそのままもっていくのではなく、現地に合わせた、現地人が使用可能なシステムを構築する必要がある。
現状把握としっかりした考え方について勉強になった。
知財戦略、出口戦略の話が印象に残りました。
講義に出席できませんでしたので内容についてはお答えできません。
トータルマネジメントが出来るのは土木である。土木は割り切りができる、といった内容に共感しました。
情報技術と土木技術の連携の必要性
研究開発成果の実証展開が重要との論は、私も日々感じていることであり、講師も力説されていたのが印象的だった。
・S-net（日本海溝海底地震津波観測網）のシステムを構築する際に、省庁の縦割り社会が邪魔をしたと聞いて、同じ目的で動いているのになぜ今もまだそのような状況なのかと非常に残念に感じた。またその際に「こういうのをまとめられるのは土木屋しかない」との天野先生のお言葉に、感銘を受けると共に、モチベーションが上がりました。・土木屋は作って終わりではダメというお話に非常に共感した。インフラは作った後、誰かが使うものでありそこまで考えてトータルマネジメントをしていくべきだと思うし、生き残っていけない。東南アジアなどでよく道路を作った、水道を引いたなどの話があるが、そこで終わりではなくそのインフラをどのように、だれが維持管理していくかが重要で、「作ったら終わり」の時代はとくに終わっているのだと改めて感じました。
土木屋には、「広い視野で物事を見ることが出来る特性がある」というお話をしていただいたことで、今後必要になる分野横断的な協力体制や情報共有体制をマネジメントするのは土木屋の使命であると考えました。
土木技術者は割り切りができる、とお話は本質についていると思いました。
土木の技術的なお話を伺う機会は多いが、まさに「土木政策」の最先端、特にその裏話を聞いたのがとても面白かったです。
土木屋はもっと情報工学を利用すべきということ。
広い視野でプロジェクトを遂行していくことの難しさと土木技術者が視野を広げることでいろいろな新規分野を開拓できそうに思った。
役所の横連携が必要という第三者委員会等の提言を実は公務員も歓迎しているという話。委員会提言などは迷惑なものとか考えていないのだろうかと思っていましたが、前向きに考えられているということがわかりました。
全体をまとめられるのは土木エンジニアの強みであるという点
“情報系の技術者をうまく使いこなす”ということと、“現実を定量化する”という言葉
緊急時における府省庁連携（情報共有）の重要性とその準備について（また、その難しさ）印象に残りました
情報工学との連携のあり方
・防災科学技術研究所の存在及び事業内容。・トータルマネジメントを出来るのは、広い視野で物事を判断出来る『土木屋』であること。・海外で仕事をする上での注意点。・海外の地元の人でも出来るようなシステムを売り込む（教える・教育する） ・上から目線では、ダメ。・その国の住民の立場になって考える。・現状を把握し、その国のニーズは何なのかを明確にする。・これから仕事を進めていくにあたって大切なこと。・たくさんの情報から取捨選択し、良い情報をうまく使う。・目的を明確にする。
情報系職員とのコラボ
防災の視点からの今後の業界のあり方など
昔 天野先生の論文を何度か拝見したことがあったのでお会いできてたいへん光栄でした。
SIPの予算編成の仕方が民間同然の緊張感のある取組がなされていたことは印象的だった。同時に、そのことが自分を含め世間でもほとんど認知されていないことも逆に印象的だった。
土木技術者にはマネジメント力が備わっているという話を聞いて、自分の技術力以外のビジネススキルについて一度見直してみようと思った。関係者を説得するため現状把握を行った話を聞いて、最初の現状把握の重要性を再認識した。

講義についての自由意見（任意）
<p>前回の木村教授に続き、今回の天野さんの講話も非常に有意義でした。いずれも、既存の考え方や当たり前とされていることに疑問を持ち、自分自身の信念に基づいて突き進んでいくことで、新たな世界が見えてくるというお手本だと感じました。</p> <p>テーマを事前に設定し、議論・発表が良いかと。</p>
<p>幅広い話が聞けて良かったと思います。</p>
<p>強制的な班分けは、これまで知らなかった方を知るきっかけとなり良いと思いました。</p>
<p>・講義+グループワークという形式は、受け身ではなく自分からも発信していける形式なので良かったですと思います。・グループワークは、お題が決まっていなかったため、みなさん自由に発言ができたと思いますが、すこし発散しているような感じもあったので、少しテーマを絞っての話合いがよいかと思います。自由な発言だと、思考することや、思考の共有がすこし少なくなってしまう気がしますので。・次回はグループワークの時間を多めにとる形式にするのもいいかと思います。</p> <p>組織の中で様々な意見を取りまとめることの難しさや、それでも自分の意見を主張して良い方向へ持っていくことの重要性を教えてくださいました。受け身的な仕事の仕方ではなく、自ら変えていくことの必要性を感じました。</p> <p>講義時間、その後のグループ討論の時間はちょうど良かったです。天野先生のお話しは、迫力がありませんでした。</p>
<p>時間の制約があったためと思いますが、建設会社時代の橋梁技術に関するお話ももう少し何れれば良かったと思いました。</p>
<p>民間同士の連携についてはWINWINの関係を構築するのは難しいことが認識できたが、解決策を皆で考えることがまずは大事だと感じました</p> <p>フリーな割には、グループディスカッションもうまく機能したと思います。</p> <p>今回は、フリーディスカッションがあったため、講義の時間が短かった。もう少し、先生の自己紹介を聞きたかった。（その時々、失敗例・成功例が聞きたかった。）</p>
<p>土木にしかできないマネジメントがある、ということばかりも聞いた。土木にしか通用しないとと思っていた考え方やプロセスが、一見関係のない他分野のことにも実は応用できる技術だった、という点には思い当たる節もあり、非常に新鮮だった。</p>

ディスカッションテーマ
・要求性能を満たせる技術者のケーススタディー
自由討議で良い
講義の内容に対して、様々な意見を出しあうには、今回のような自由討議がベストかと思います。
インフラ整備の市民への伝え方 シャッター街の解消等具体的なイメージも議論 コミュニケーションの取り方
自由討議としたことで、グループが興なれば違うテーマで話し合いがあり、各グループからの発表で様々な話題を聞くことができ良かったと思います。
土木技術者としてこれから必要となるスキル等、天野さんの経験論から考えてみるとかなら、もっと自由に意見できたかもしれない。
ゲストスピーカーの方に、我々若手に討議して欲しいポイントを提示してもらえると良いと思いました。
出席できませんでした。
ある程度は「自由」で良いと思いますが、質問に答える講演者の事も考えると、講演内容をより反映したテーマを立てておくのも良いと思います。内容は講演による方が良いと思います。
・縦割り行政を是正する方法
I C Tを建設業界で取り込んでいくにあたっての課題と解決策
・防災システムの将来像について ・土木屋が今後情報工学、理学の分野とどう関わっていくべきか ・最近の地震・津波被害を通して、感じたこと、問題点、改善策など
自由討議でいろいろな意見が聞けたので今回は良かったと思います。テーマを設定するとすれば下記のお題を挙げさせていただきます。 ・タテ割り組織の解決方法 ・土木屋ならではのマネジメントで外貨を稼ぐ方法
講義の結論(情報技術の活用)について、テーマを設定してもよかったかもしれません。
テーマを設定しすぎると後半発表班の言うことがなくなるので(笑)、今回くらいでちょうど良いと思います。
テーマにとらわれる必要はないですが、少しテーマは絞った方がよかったです。
自由討議で問題なかった、最後の発表が討議の報告なのか、提言、講師への質問なのか設定していただけたと良かったと思う。
講演に関する感想や質問も討議の一部とするのはいいと思います。他のテーマは、例えば組織間の横連携を実現するための障害と対処法とか、女性が活躍しやすい会社とする方法とか、防災科研のような国の研究機関に期待する研究は何かとか。
どんなテーマでもいいと思いますが、何かしらのテーマ設定をしたほうが良いと思う
まずは課題を絞って、それに対する議論となればやりやすかったかもしれませんが、課題も班で決めるように促せば、今のままの自由討議で良いと思います。
今回のような自由討議の方がテーマをそれぞれで考えたりすることで出てくる「気づき」があり良かったと感じました。
今のままでもいいと思います
・トータルマネジメントを行うあたり、必要な事。
各社の人材教育への取組み 効率アップのための業務改善内容
建設業界の生産性向上にむけた施策
やはり 建設業を活性化させるには？ について議論するのがよいと思いました。主旨は、視野を広げるための会、とお聞きしていますので業務と直結しないテーマについての議論がよいかと思います。前回のワークでは、今の自分仕事とどう関係があるのか？！という観点でお話をする人が多かったと思います。
「防災時のマネジメントをするにあたり、どのようなアプローチが土木屋らしいか」 ですが、自由討議は自由討議なりにフリーダムな良い議論ができたと思う。
他分野技術者との連携について

ディスカッションに対する自由意見
もう少し時間が長くてよかったと思いました。
時間内に活発に意見が出ていい雰囲気だった。
討議ポイントに対して、塾生の知識レベルに差があると討議が深まらないと感じました。討議ポイントに対する現状把握として、ゲストスピーカーの方に情報提供していただけると良いと思いました。
強制的な班分けは良かったと思います。（「講義」がディスカッションも含むと考え、前ページの「講義」に関する自由意見に記載同内容を記載してしまいました。）
テーマがあったほうが話をまとめやすいと思います。
・もう少しディスカッションする時間がほしかったです。・会場の広さで難しいかもしれませんが、ホワイトボードがあると議論しやすいかもしれません。・事前に読み物、課題を提示して、当日講師の方の講義を少し聞いて、ディスカッションをする形式はどうでしょうか？
自由テーマでしたが、話が行き詰まることなく様々な意見が飛び交い、大変有意義でした。
簡単な自己紹介シートを用意するのはどうでしょうか。
質問は1つまでにした方が良かったですね。
対面形式では、質問者の発言時間を制限して、より多くの質問回答ができるようにしたら良いと思う。また、質問者→講師→その他の参加者のような広がりがあると良いと思う。
それぞれの立場による見方が刺激になりました。
・班長になった方が、しゃべっていない人にも意見を聞くような配慮が必要であったと思う。・時間が、短かった。
ディスカッションについては、予め題目があった方が話しやすいし、意見も集約しやすいのではないかと。
テーマがなかったので、話し合いを始めるきっかけが難しかった。また、そのディスカッションでの成果品がなにを求められているかがわかりにくかった。
ありません。
今回のような発表をする機会は就活ぶりだったため大変新鮮だった。
全くのフリーよりも何かしらのテーマ（複数でも）を設定しておいたほうが議論しやすかったように思う。

懇親会に関するご意見・ご要望
同業者で固まりすぎる傾向があるように思う。
特になし
もう少し広い会場にすることで、より色々な方と意見交換することが可能になるかと思えます。少し会費が高くなってもよいかと。
たまには学会の中の立食でも、ディープにならず参加しやすいかも。
残念ながら欠席でした。
盛り上がっていて、異業種交流として貴重な機会だった。
時間、価格設定とも、良かったと思えます。できればもう少し広い部屋だったら尚良いと思えます。
非常に楽しい時間を過ごすことができました。開始時間が早いのもゆっくり話ができて良かったです。
懇親できました。
立食形式は苦手なので、今の形式がよいと思えます。
・みなさん自由に席を移動されて、いろんな方とお話することができて、楽しかったです。・あの何とも言えない、ギューギュー感が、よかったです。・名札は毎回必要だと思います。
会費を安く設定して頂き感謝しております。今後参加人数が増えそうですので、安く広い店をみんなで探しましょう。講師の天野さんには講義で聞けなかったお話もしていただき、参加して良かったと思えました。
席が別れてしまったのは残念と思えます。
欠席
ちょっと店が狭いかな。
名札は会社名がないのがいいかと思う。
他の店も考えてもいいかも。個室が狭いので席を移動しにくいです。幹事の方は大変だと思いますが。
今回は田代会長にお越しいただきましたが、毎回サプライズゲストがいると懇親会参加のモチベーションが上がる
十分な意見交換が出来て有意義だと思えました。
懇親会について、固定メンバーや仲の良いメンバーと一緒に居る傾向があるので、クジで座席を決めて頂くと助かります。また、人数が増えて一部屋に入りきれなかったため、部屋の外での会食となり、少し寂しかったです。
産・官・学がそれぞれどのような考え方や悩みを持っているか知りあう上でも、懇親会は是非開催し、ざっくばらんに話す機会は続けた方が方が良い。
だんだん、懇親会時の席順の固定化が進むと思えますので、もし可能であれば 事前に席決めをしてもよいかと思えます。
同じ業界の同世代の方々とざっくばらんに話せる（最低限のマナーさえあれば特に利害関係なく付き合える）機会は土木学会くらいでしかないため、とても貴重なと思う。また、天野先生の話が聞けて良かった。
普段あまり接点のないゼネコンの方々と話できて面白かった。

勉強会全体に対する自由意見
視野を広げるという点で有意義であった
講話～ディスカッションの流れもよいと思いますが、 <u>昨今のトピックスに対して、みなさんと自由討論するの</u> もよいかと思ひます。省庁、コンサル、ゼネコンなど立場によって違った考え方が見えてくるかと。
講話にもありましたが、通常業務はそれぞれの立場もありますが、勉強会やグループワークを通じ、異業種交流の機会も増えるのでとても良いと思ひました。
<u>自己分析するなど、これからスキルとして身につけていく必要がある部分をあらかじめ分かっていると、勉強会がより有意義に感じると思ひます。</u>
<u>若手リーダーを養成するために、何が必要なのか、どうやって要請するの</u> かを討議する回を設けてはどうかと思ひます（例えば、若手リーダー養成のために土木学会に期待することは何かなど）。
今年度二期生とし、年度ごとにメンバーを入れ替えるのが良いと思ひます。
基本的に今の内容、流れてよいと思ひます。
・視野を広げるという意味では、土木と直接関係のないような業界の若手リーダーの話聞いてみたい。・最新の情報や事例なども重要ですが、過去の事例なども視野を広げるには、必要だと思ひます。・勉強会で現場見学会を開催したり、小委員会で、二輪の方... 向けに現場見学会などを開催して、土木の魅力をもっとアピールしていきたい。・若手パワーアップ小委員会の活動をもっとアピールしてほしい！・若手のやる気ある土木技術者にもっと参加してほしいです。
講師の先生方には、土木技術者に求められていることをご指導いただき、自分の中でも考え方が良い方向に変わってきていると感じています。今後も大いに期待しております。
グループ討論はよいと思ひました。
現時点では講話形式でよいと思ひます。もう少し軌道に乗ってきたら、提案や要請ができた方がよいと思ひました。（そうすると若手PU委員会活動と重複しちゃいますかね・・・）
参加者の所属部門が幅広いので、技術論だけでなく、組織論、担い手確保、発注方式などの話もおもしろいと思ひます。
過去二回は講師自らの経験などを語るのがメインでしたが、 <u>もっとリーダー養成に定評のあるコンサルタントに講師をお願いする</u> のも良いかと思ひます。
継続することが大切と思ひます。
機会、きっかけとして、今後も継続していくことが良いと思ひました。
・大型工事の現場見学を希望します。
若手リーダーの養成も必要ではあるが、 <u>土木職員全体のレベルアップをどうするか（モチベーションアップも含め）、養成するの</u> も必要ではないか。
ありません。現状のやり方でもう2～3回程度進め。その時点で確認してみればと思ひます。
今の土木工学はシビルエンジニアリングなのにシビルとの距離は遠いように思ひます（広報等様々な取組みがなされているかとは思ひますが...）。江戸時代以前はもう少しシビルに密着して、学問というより暮らしの知恵だったものが、どうして、いつから現在のように乖離してしまったのか。過去の歴史を通してきを再確認することも、視野を広げたり新たに解決策を見つけたりするヒントになるのではないのでしょうか。
今後予定されていると思うが、土木分野以外の若手リーダーの話聞く機会を楽しみにしています。

その他自由意見

有意義に参加できました。

まだ皆さんと十分にお話しできていないので、研修会を希望します。

良い刺激になりました。できるだけ次回も参加したいと思います。

若手をパワーアップさせるために、次の3つの観点について、テーマ設定、講師選定をして欲しい。1.ルールに従う側からルールを作る側になるための方法論を学ぶ。2.技術力の低下を食い止める又は、低下した中でも、うまく仕事ができるようになるための方法論を学ぶ。3.ワークライフバランスを保つための働き方の方法論を学ぶ。

1回目比べて、積極的な意見が多かったと思います。よい方向に進んでいるのではないかと感じられました。今後ともよろしくお願いします